

学会参加を促した 保健師現任教育の取り組み

岩手県立大学看護学部
地域看護学講座

藤村史穂子, 上林美保子, 蘇武彩加, 岩渕光子,
松川久美子, 大久保牧子, 工藤朋子, 三浦まゆみ

事業開始の経緯

保健師・・・行政職＋看護専門職

- 高度で幅広い力量が求められ、体系的な現任教育のための研修と自己啓発が必要
- 各種学会は他地域の活動を知ったり、最新の知見が得られる場

しかし

岩手県の保健師は、研修会へは70%以上が参加しているが、学会への参加は20%弱、発表は5%と少ない(平成21年度当講座調査)

学会参加や発表は業務へ直結しているようにみえにくい
ため、職場に根付きにくい

そこで

研修会は保健師の活動や事業実施に直結しているため参加につながりやすい

本学卒業後、岩手県内へ保健師として就職した卒業生を対象に、平成24年度から卒後教育として学会参加の支援を開始

事業について

・事業名

「保健師さんも学会へ参加してみよう」プロジェクト

・事業概要

各種公衆衛生関連学会への参加を促し、自己啓発の中の学会発表への意識を高めることを目標に、抄録作成や発表にかかる指導、経費の一部支援を実施

・実施結果

年度	参加人数	概要
平成24年度	4名	・日本公衆衛生学会に4名参加 ・参加したうち2名が卒業生の集まりで学会参加での学びを報告
平成25年度	4名	・日本公衆衛生学会にて2名が発表、うち1名は平成24年度の学会参加者 ・日本公衆衛生看護学会に2名参加

研究目的: 本事業へ参加した卒業生の感想からその効果について検討

方法

・調査方法・分析方法

平成24年度、25年度の本事業の報告書として公表されている参加者の感想(述べ8名分)の中から、**学会へ参加したことでの気づき・学びに関する記述**を抽出し、類似した内容で統合した

・倫理的配慮

本事業参加者に対し、学会での公表について同意を得た

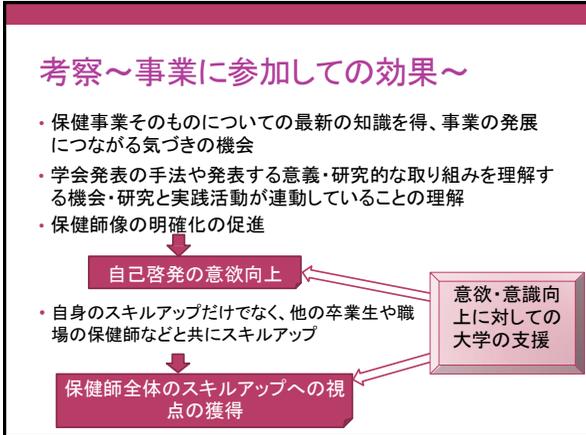
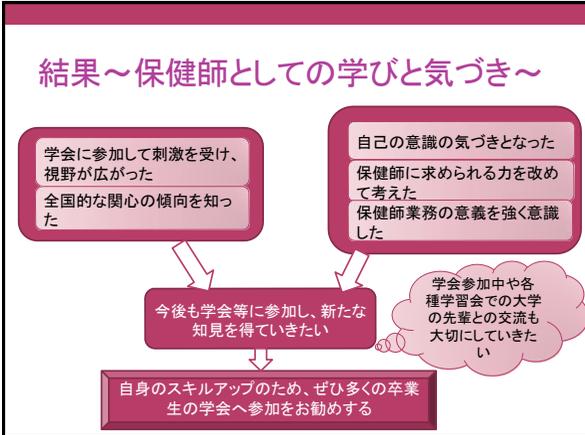
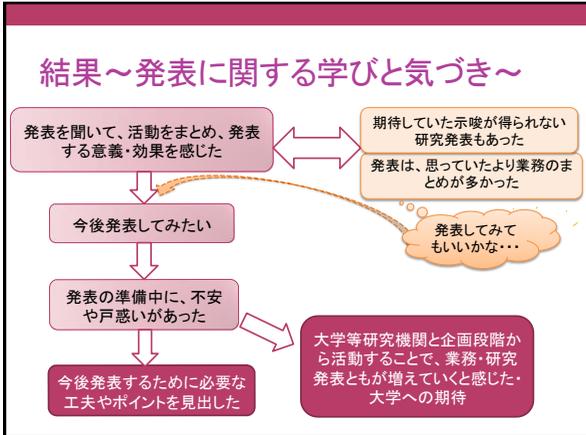
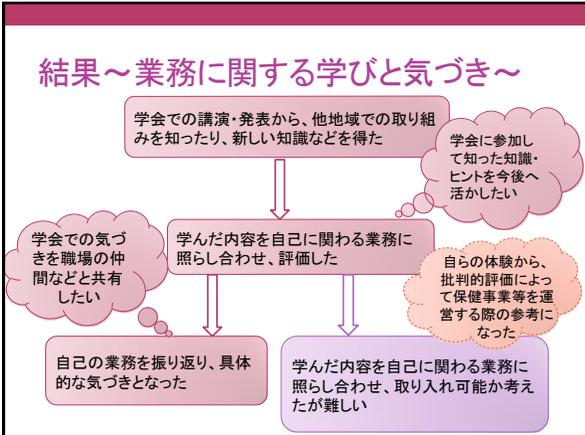
結果

・参加者概要

性別	男性	3名	平均6.8(±3.7)年
	女性	5名	
保健師経験年数	1～5年目	4名	平均6.8(±3.7)年
	6～10年目	2名	
	11年目以上	2名	
所属	県庁・県型保健所	3名	
	市町村	5名	

※2年とも参加した者: 1人(H24参加、H25発表)

- ・119コード、22サブカテゴリについて、「業務に関する学びと気づき」、「発表に関する学びと気づき」、「保健師としての学びと気づき」に分けられた



今後について

保健師の活動基盤に関する基礎調査報告書 (日本看護協会、2015)

過去1年間の学会参加は28.6%で、中でも**保健師経験11～15年目が最も低い(23.3%)**

本学は平成10年に開学し、**1期生は保健師経験14年目**

- 早期から学会参加意欲をもち、継続的に学ぶ姿勢を維持していくような支援は重要
- 本県の保健師に役立つ卒業後教育を今後も支援していく

